

【大悲願寺深読み】

- なぜこの地に大悲願寺は建立されたのか？
- なぜ無住の衰退期 1337年(建武4)年に、千手観世音菩薩が修理されているのか？
- なぜ大悲願寺には宝物、古文書が多数残っているのか？
- なぜ伊達政宗の舎弟秀雄がいたのか？
- なぜ大悲願寺住職は八王子落城時に戦勝御祈禱に行かなくて済んだのか？
- 僧侶は日々どんな行事をこなし、地域社会においてどんな役割を担っていたのか？
- 将軍の代が変わる毎に、新しい御朱印状の拝領に江戸迄出向いたどんな様子だったのか？
- 大悲願寺日記から、寺と近隣村民との関りをひもとく。
- 大悲願寺日記の執筆者慈明は、和時計の製作や和算に長けた理系の知識人でもあった。その和時計はどうなったのか？
- 墓所にある五輪地藏は、24世如環が若くして京都の智積院で亡くなった愛弟子菊淵房玉幢を悼んで造立したもの。五輪地藏って？

コース

JR 武蔵増戸駅【集合】⇒ 砂沼遺跡 ⇒ 横沢入り ⇒
大悲願寺 ⇒ 愛宕神社 ⇒ 五輪坂 ⇒

JR 武蔵五日市駅【解散】

武蔵五日市駅発時刻：12時39分 13時09分、39分

ご挨拶

市民解説員はあきる野を愛し、わがまちわが地域の自然・歴史・文化の再発見に努め、地域における生涯学習の推進を図るため、地域で活動する学習ボランティアです。

あきる野市は自然や遺跡の宝庫といわれています。この恵まれた環境のもとで、地域の皆さんとふれあいながら、私達は自らを高めるために学習し活動を進めています。

今後とも宜しくお願い致します。

【担当解説員】 吉野清治 石崎健 戸田正法 高森やす子

市民解説員が案内する市内探訪

大悲願寺じっくり探訪

～伊達政宗ゆかりの古刹～



大悲願寺絵図（明治40年発行）
境内の広さ約 15,000㎡(4850坪)

令和3年11月2日(火) あきる野市中央公民館

金色山吉祥院大悲願寺 真言宗豊山派 横沢134

【沿革】

開基：1191年(建久2)寺伝によれば源頼朝の命により平山季重創建

開山：醍醐寺三宝院の僧澄秀(ちょうしゅう)

再興：1360年(延文5)4世澄遍再興

本尊：大日如来

朱印状20石 末寺32ヶ寺

13世海誉(由木氏)、15世秀雄(政宗舎弟)、24世如環(大悲願寺文書他)、34世精神(豊山派管長、大正大学・東洋大学学長)

【文化財】

《国指定重要文化財》

木造伝阿弥陀如来及脇侍(千手観世音菩薩、勢至菩薩)坐像

1337年千手観世音菩薩修理(底板銘文) 鎌倉極楽寺系仏師

日奉氏檀越 当地最有力豪族小宮氏を大旦那に地侍の支援があった

《都指定文化財》

本堂(講堂)

1695年築(元禄8)高尾村棟梁左衛門次郎久重、大工12、木挽

14名 書院造り風の方丈系講堂様式本堂

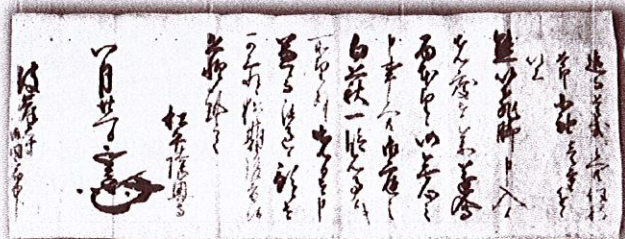
平成2年~5年半解体修復工事 造営当初の様式に復元される

寄棟造茅葺型銅版葺 23.84m 13.42m 319.93㎡

大般若経写本 1181年(治承5)大般若経奥書

大悲願寺文書(10355点)

- ・伊達政宗の白萩所望状(伊達政宗白萩文書)
- ・観智国師書状(観智国師-芝増上寺12世 当山13世海誉の伯父)
- ・入院一件録・萬記録(大悲願寺日記) 他



伊達政宗白萩文書

《市指定文化財》

観音堂(無畏閣)

1794年(寛政6)再建 1827年(文政10)唐破風の向拝建造

1834年(天保5)唐破風や羽目板等に彫刻が嵌め込まれる

平成16年~18年半解体修復工事

- ・建立当時に近い寄棟造茅葺型銅版葺となる
- ・堂内外彫刻が塗り直される

楼門(仁王門)

1613年(慶長18)築 1669年(寛文9年)再建 現在の建物は1859年(安政6)に建てられ天井絵の作成も同年

金色山扁額一如環書

仁王門天井絵一(絵師)藤原善信 仁王像天井絵一(絵師)森田五水

中門(朱雀門、唐門、赤門)

1780年(安永9) 25世鑣津建立 四脚門

梵鐘

1672年(寛文12) 鑄造一横川の冶工加藤五郎衛門尉宗次
銘文一長谷寺小池坊信海僧正

当寺には1461年(寛正2)、日奉朝臣小宮中務沙弥憲行によって作られた古鐘があり、これを鑄直したのが本梵鐘ともいわれるが確証はない

如環版本活字並びに活版本

談林として弟子養成に活用

- 棟札
- ・1547年(天文16)本堂破風修理
 - ・1597年(慶長2)本堂修理
 - ・1669年(寛文9)楼門棟札
 - ・1695年(元禄8)本堂建築

懷中仏

14世紀頃の作 不動明王と勢多迦・金伽羅の二童子を浮き彫りにした巧妙精緻な作品

縦12.2cm 横8.7cm 厚さ1.5cm



懷中仏

六角宝幢式経筒

1585年(天正13) 銅版製経筒 総高14.5cm 筒高9.7cm

井戸杵 1705年(宝永2)伊奈石製

五輪地藏

1748年(寛延元年)舟形光背に五輪塔が刻まれている
多摩最古の五輪地藏

【+大悲願寺日記(上下2刊)】

26世慈明、27世宝(法)明により1785年(天明5)から1817年(文化14)まで33年間書き継がれた日記。

「入院一件録」1冊と「萬記録」12冊、770頁13冊になる。

慈明は文化7年8月まで執筆。寺土蔵より発見された。

江戸時代の寺院は幕藩体制維持の機関として、地域ピラミッドの頂点にあり、その支柱である。近世寺院、近世村落の状況が記されている

- 【参考・引用資料】
- ・『五日市町史』(五日市町)
 - ・『五日市町の文化財』(五日市町教育委員会)
 - ・『大悲願寺日記』(五日市町立郷土館)
 - ・『大悲願寺文化財調査報告(上)』(五日市町)
 - ・『大悲願寺本堂修理工事報告書』(大悲願寺本堂修理委員会)
 - ・「郷土あれこれ」(あきる野市教育委員会)
 - ・「郷土の古文書」(五日市郷土館)
 - ・「大悲願寺発行パンフレット」 他